

肉用牛一貫農場への重点指導の取組

中部家畜保健衛生所

○木本結貴・稲吉洋裕

県内の主要な和牛生産地域の中核を担う肉用牛一貫経営法人において、家保と関係機関が連携した技術支援を行うことで、飼養管理の向上が図られたので報告する。

1 農場概要

肉用牛一貫経営の法人で、黒毛和種繁殖牛62頭、肥育牛174頭を飼養（令和6年2月）、平成25年から枝肉の一部を買い戻し、牛肉販売事業にも取り組んでいる。また、地域で生産された子牛を肥育素牛として積極的に導入、地域内の自給飼料の利用に加えて、地域の牛の預託管理を行うなど、地域に欠かせない中核的畜産経営体となっている。

2 取組内容

1) 経営技術指導

令和4年度から専門家派遣事業を活用した経営検討会を実施した。

2) 飼養管理技術指導

農林総合技術センター畜産技術部（畜産技術部）の指導を引継ぎ、平成23年度から農林水産事務所連携業務として年4～12回の技術検討会として実施した。検討会には家保、農場、畜産技術部、市、JA、家畜診療所が出席し、飼養管理に関する技術指導を実施した。

3) 農場職員の技術育成

令和5年に場長を20歳代の職員が担うこととなり、従業員も半数以上が20～30代と若い世代が多く、技術支援と共に場長交代時の円滑な業務遂行を補助した。

3 成果

1) 経営技術指導

検討会では、経営に関する専門家による経営分析を行うことで、経営収支や育成段階ごとの飼料費等が具体的に見える化され、経営改善の一助となった。

2) 飼養管理技術指導

肥育牛について、枝肉成績が向上し、令和5年度の上物率は86.8%に向上した。繁殖牛及び子牛、育成牛について、疾病防止のワクチンや分娩管理の指導を行った。また、牛房の配置や堆肥処理についても助言を行い改善への取組が行われた。

3) 農場職員の技術育成

飼養管理省力化への取組として牛群監視通報システムの導入支援やSNSを活用した迅速な情報伝達を支援した。

4 まとめ

定期的に検討会を開催することにより、枝肉成績が向上し、母牛と子牛の飼養管理も改善された。また、関係機関が一体となって支援することで、問題意識を持って農場職員が作業できるようになった。今後も関係機関が一体となって支援を実施したい。